

教育目標		かしこく、明るく、たくましく、豊かに創造する子			総合評価	
運営方針		自ら課題をもち、自ら考え、判断し、自ら解決する活動を通して、自主性や主体性、自尊感情等を育み、人として自立・自律できる児童を育てる。				
令和3年度の成果と課題		指導の重点目標	具体的目標			
【成果】 ・ICT機器を積極的に活用する意識を高くもって、教員が指導に当たってこれた。 ・系統的な学び、基礎力の向上に取り組んできて、漢字力や計算力が定着している。【課題】 ・コロナ禍の影響を大きく受け、地域学習が十分に進められていない現状がある。 ・家庭教育力向上に向け、地域家庭及び関係機関と運動して取り組む必要がある。コロナ禍での運動不足による肥満傾向や体力低下対策が求められる。	(豊かな心・ふるさと教育)	・道徳の時間を中心にさまざまな教育活動を通じて、人としてよりよく生きようとする道徳性を養うとともに、ふるさとに誇りをもって生きていく児童を育てる。	○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。 ○主体的に地域に関わり、地域から学び、地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。		B	
	(確かな学力)	・各教科の特質に応じた言語能力を育成すると共に、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育てる。	○児童の力を見極め「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組み、算数の力を向上させる。 ○読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。			
	(健やかな体)	・健康や安全について理解を深め、基本的な生活習慣の定着を図ると共に、体力向上を目指して運動に積極的に親しもうとする児童を育てる。	○自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。 ○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。			
	(働き方)	・業務のスリム化及び時間の効率化を図り、働き方改革を推進する。	○業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図りながら、教育の質を向上させる。			
評価項目	具体的目標(評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
豊かな心・ふるさと教育	○児童一人一人の心に響く日々の道徳教育を核にして、互いに認め合う心や自立・自律の心を通して、確かな人権意識を育てる。	○道徳的価値(自立心、共に考え生きようとする態度、規範意識、生命の美しさなど)の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることができるよう育成する。具体的に、児童が道徳的価値を自分事として考えられるように、自分の経験を話す機会を設ける。さらに、考えたことや気づいたことを発表したりワークシートに書き添えたりすることで、自己の生き方についての考えを深められるようにする。 ●年間を通して、人権意識が高まったかどうかを、道徳ノート、授業の態度や生活の様子から把握していく。	B	○授業で児童が道徳的価値を自分事として考えられるように、児童自身の経験を話す機会を設けた。さらに、自分の思いを発表したりワークシートに書き添えたりすることで、人権意識を深めることができた。しかし、道徳的価値を行動に移すことができない児童があることを受け止め引き続き取り組む。○人権意識が高まり「道徳ノート」授業の態度や授業後の生活態度を通して、児童の変容を感じることができた。	○引き続き、児童自身の思いや考えを発表する機会を設ける。さらに授業の最後に友だちの意見を認めたり同じ思いを見つけたりする時間を設定する。 ○日頃の生活態度・行動・言動等の見とりから、人権意識が高まっているかを把握していくとともに、定期的にアンケートを実施する。 ○副教材を活用しやすい環境を整えておきたい。	○子どもの頃にしっかりと善悪を教えることが大切ではないか。 ○以前、帽子を噛んでいた子どもがいた。寂しさから表出しているのではないかと考え、他の兄弟より子どもにも寄り添うことで落ち着いた。家庭でもしっかりと子どもと向き合うことが大切ではないか。
	○自己有用感を高め、一人ひとりのちがいを共に認め合うことができるなかまづくりを目指す。具体的に、人権を確かめ合う日の取り組み、「人権の花」を咲かせようプロジェクト、副教材の活用、キラキラタイムの充実を、継続的に行う。 ●児童が取り組んだワークシートや、発表をもとに成長の過程を把握していく。	○「人権の花を咲かせよう」では、児童の達成感や周りの人から認められた気持ちや育むことができた。しかし、意識が徐々に薄れ、取り組む児童が少なくなってきた。 ○キラキラタイムでは、一人ひとりの自信につながってきたが、挙手する児童が固定化されている。 ○「人権の日」では教員がテーマに沿って話をし、人権意識を共有することができた。しかし、内容によっては、内容が難しく学年を分けて話をした方がより理解が深められるものもあった。	B	○「人権の花を咲かせよう」では、児童の達成感や周りの人から認められた気持ちや育むことができた。しかし、意識が徐々に薄れ、取り組む児童が少なくなってきた。 ○キラキラタイムでは、一人ひとりの自信につながってきたが、挙手する児童が固定化されている。 ○「人権の日」では教員がテーマに沿って話をし、人権意識を共有することができた。しかし、内容によっては、内容が難しく学年を分けて話をした方がより理解が深められるものもあった。	○「人権の花を咲かせよう」では学級に用紙を置くだけでなく意図的に自己の振り返りの時間を設定する。 ○キラキラタイムでは、メモを取っている際は自信につながるような声かけを行ったり、発表後は児童の意見を認めたりする。 ○テーマによっては、より理解が深められるようにするため学年を分けて話をする。	
	○主体的に地域に関わり、地域から学び、地域に貢献しようとする意欲や態度を育てる。	学級や学校生活(委員会・クラブ等)をよりよくするために課題を見だし、課題について話し合い、合意形成し、実践(役割分担・協力)し、解決することを通して、児童が主体的に活躍し輝ける素地を養う。	B	○各学級や児童会で、学級や学校をよりよくするために話し合い、実践することができた。運営委員会を中心に児童会の代表委員会を行うことができた。 ○学校生活を見つめ、課題を見いだす力を更に育成したい。	○課題に目に向くような話をしたり、日々の生活を振り返らせたりする。運営委員会の設置する議題ボックスを有効活用できるように、学校の生活の中で見つけた課題を話し合っ解決しようとする意識をもたせる。	○統合前のPTAで結のつかみ取りなど、保護者・学校・地域と一緒にあって、子どもたちの体験や経験の場を作った。今は新型コロナで難しいかもしれないが、そのような場があってもいいのではないか。
	生活科や総合的な学習の時間では、村のことに触れる体験活動「町探検・村内めぐり・防災学習・森林学習・歴史学習」を行う。また、生活の中から地域に関わる探求課題を見だし、課題解決「探求課題の設定、情報収集、整理分析、まとめ・表現(伝承)」できるように育成する。	B	○コロナ禍で控えていたこと(体験活動)やクロームブックを活用して探求活動を行うなど、目標をもって調べ学習を行うことができた。	○もつと活発にゲストティーチャーを招いたり、地域の人と交流したりする学習を増やしていきたい。児童の施設訪問や郷土学習としての共同学習する機会を設けていきたい。		
確かな学力	○児童の力を見極め「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組み、算数の力を向上させる。	○数の表し方のしくみ、数量の関係や問題場面の数量の関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりして考察する授業展開を進める。昨年度より学力テストの各種調査において総合の標準スコアを3以上アップする。	B	○「A数と計算」領域に絞って研究を進めることで、単元の系統がよく分り、指導に繋げることができた。 ○学期ごとに研究授業及び研究協議を行い、ホワイトボード等活用して「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりに取り組むことができた。 ○児童が問題が分からないときに諦めずにいろいろな方法で考えようとしている。 ○3つの柱を立てたことで、教員が同じ視点を持って授業を観察したり協議を進めることができた。 ○学力調査の分析が行えず、児童の学力の分析結果の妥当性が低かった。	○研究授業だけでなく、お互いの授業を見学できる機会を増やしたい。 ○県教科等研究会や教科書会社の学力診断の結果を分析するとともに、児童の学力の実態把握を行ったり、児童が付けられる力の見直しをもって取り組むことができるように「数と計算」におけるルーブリック評価を作りたい。	○高校ではシラバスを作成し生徒に提示している。学びの方向性が分かるので見直しをもたせることができる。 ○何をしても集中力を高めることが大切ではないか。 ○家庭学習をするとき、おおよその時間がある程度ではないか。20分程度でできることをダラダラとしてしまっている。(家庭学習の手引きがあることを説明した。)
		○「A数と計算」領域における基礎的、基本的な力を育てるために、毎週月曜日と木曜日の業前活動で算トレ「基礎力向上プリント」に取り組む。昨年度より学力テストの各種調査において「A数と計算」領域の標準スコアを3以上アップする。	B	○オリジナルの業前活動を計画し、分析・改善を重ねながら取り組むことで、児童の四則計算の習熟を図ることができた。 ○児童も教員も積極的に算トレに取り組むことができたが、計算が得意な児童や支援が必要な児童に対しての今後の進め方に課題がみられる。	○算トレがマンネリ化しないために、計算の速さを競い合うなどの取り組みも入れていきたい。 ○児童の学力に合うコピー可能な教材を探し、推進していきたい。	
		○特別支援学級では、児童の理解度に合わせて学習内容や進度を調整し、計画的に繰り返し学習することで定着を図る。また、個に応じて教材や教具を工夫し、具体的な操作活動を通して、理解を深められるようにする。個別の指導計画での達成度から検証する。	A	○当該年度の学習をしている児童は進捗を調整して学習を深められた。他の児童は個性に合わせて、家庭学習を含めた繰り返し学習を行ってきた。個別の指導計画を三学期制に変えて進捗を計りながら、目標を定め直して取り組んできた。次の課題に発展させるとともに、児童の個性に合わせて丁寧に対応していく必要がある。	○来年度、個別の指導計画の形式が変わるの7月当初に研修を計画する。今年度は巡回指導員に、特別支援指導員について教えていただいたので、来年度もその機会を活用して、さらに研修を深めていきたい。また、特別支援児童が集まって、自立活動等をする機会を設けていきたい。	○元特別支援学校の教員にアドバイスをもらえることは良いことだ。子どもの成長に繋がる。
読書や家庭学習及び自主学習などの基本的な学習習慣を身につけさせることにより、学習に積極的に取り組む意欲や態度を育てる。	○読書タイムや図書委員会活動などを通して、さまざまな本に触れる機会を増やしたり、国語科の学習と関連した図書コーナーから並行読書を推奨したりして読書に親しむ態度を育てる。	C	○読書タイムに貸し出しを行うことで、定期的に図書交換を促すことができた。奈良図書館から本の貸し出しを促すことで、様々な本に触れる機会をつくることができた。学校に比べて、家庭での読書習慣が少ない児童が多いので、読むことに楽しみ見いだせる児童を育てていきたい。	○家庭での読書習慣を身に付けるための手立てや読書に親しみやすく、楽しんで読書になるようにしていきたい。○休み時間の貸出など、子どもたちが本に触れやすくなる環境整備を行ってきたい。	○読書をすることで自分が知らないことを学ぶことができる。幅広い知識を身に付けてほしい。紙の上だけでなく、本物の花・虫・生き物などから学ぶことも多い。 ○本物の自然が身近にあるので、ICT機器を活用し融合した教育を行って欲しい。	○読書をすることで自分が知らないことを学ぶことができる。幅広い知識を身に付けてほしい。紙の上だけでなく、本物の花・虫・生き物などから学ぶことも多い。 ○本物の自然が身近にあるので、ICT機器を活用し融合した教育を行って欲しい。
	○学習内容に即して児童が学びやすく、分かりやすい宿題を設定したり、自主学習としてeライブラリを推奨したりして、家庭学習の習慣化を図る。	B	○各教員が工夫して宿題を出すことができた。 ○eライブラリを用いて自主学習に取り組ませることができ、ネットワーク環境が整備されていないなど家庭での自主学習に課題が見られた。アンケート結果からも満足回答が得られていない。	○児童の家庭学習や自主学習が習慣づくよう、保護者からもアプローチをかけてもらうため、家庭教育学級などの機会を学校と家庭で連携して児童の学力を支援していきたい。家庭学習でICT機器を使用するようにするためネットワーク環境の把握に努めていきたい。		
自分の健康や安全について、自ら改善していこうとする意欲と実践力を育て、基本的な生活習慣を家庭と連携して定着させる。	○生活習慣や安全意識に関するアンケートを実施し、その結果や毎月の保健目標などを保健掲示板に掲示すると共に、全校集会・下校会で呼びかけることで、健康・安全に過ごす意識を高める。生活習慣や安全意識に関するアンケート結果や、児童の学校生活の様子や保健室の来室状況から健康・安全に関する意識を把握していく。	B	○毎月の保健目標に沿った保健指導をすることで、健康・安全に過ごすことを意識している児童が昨年度と比べて増えたが、一部の児童である。生活習慣に関するアンケート結果をまとも、児童だけではなく、家庭への啓発も行うことができた。	○保健目標を意識して達成できるようにすることや、より良い生活習慣を送ることができるようにするため、全体指導を継続するとともに、より個人指導に力を入れていく。	○時間の使い方や管理が上手にできるなど継続して指導してください。 ○好き嫌いや、体に必要な栄養について継続して話すのが大切だと思う。	
	○栄養教育を中心に、給食を通して感謝の気持ち・食べる喜び・マナーを養育指導を実施する。給食での児童の様子や残量量などから把握していく。	B	○残量はほとんどない状態で、おかわりをする児童も増えている。ほとんどの児童が時間内に喫食できているが、数名は毎日30分以上かかる現状がある。また、食べることに集中できていない児童がいる。(給食指導3回)	○無理に食べさせるのではなく、限られた時間内に食べることや栄養について理解することができるよう、気持ちに寄り添いながら個別指導を進める。		
	○運動に積極的に取り組み、運動する楽しさを味わわせるとともに、運動する意欲を高め、体力や運動能力を向上させる。	B	○休み時間の外遊びを推奨したり、スポーツテストで課題として挙げた握力や走力を高めたりするために、週一回の縦割り班活動を取り入れ、全校で運動をする機会をもつ。また、全体的な基礎体力と運動能力の向上を図るために、業前活動のジャンプアップを行ったり、冬期にはマラソンを行ったりする。昨年度のスポーツテストと今年度の体力テストを比較し、児童の実態の理解に努め、成果と課題を把握する。	B	○休み時間の縦割り班活動は児童が楽しみながら、活動することができていた。ジャンプアップでは、休み時間に投の動画を全校児童の目のつこうろで流すことで、児童が投を自分で見て確認できるとともに、教員自身が知らない技も紹介されているため、より積極的に取り組めるようになった。また、昇級者を放送で発表することで児童のモチベーションの向上にも繋がった。	○昨年度よりも外で遊ぶ児童が増えたが、遊びの種類がサッカーと鬼ごっこに偏りがあり、レパートリーが少ない。さまざまな遊びを伝えていきたい。冬期のマラソンではスタートが遅くなってしまったので、来年度は12月ごろから始めていきたい。
○業務のスリム化や効率化を遂行し、ワークライフバランスの推進を図りながら、教育の質を向上させる。	B	○ICTを活用して業務のスリム化や単純化を遂行し、業務の効率化を図る。ワークライフバランスを推進し、豊かな経験を基に教育の質を向上させていく。	B	○職員朝礼を週3回に、必要な連絡をWeb上に書き込んでいくようにしたことで、朝の時間を有効に活用できるようになった。また、ICT化が進んできたことで、ペーパーレスにつながり、書類整理の時間が削減できた。会議や研修が勤務時間外に行うことが多いので、計画的な時間配分をしていきたい。	○仕事内容の見直しやICTを活用した働き方改革を引き続き実践していきたい。また、年間行事計画に合わせて、会議や研修を進める時間を計画的に実施する。	○遅くまで電気がついていたり、のを見て先生方が頑張ってくれているんだと思いますが、体に気をつけてください。